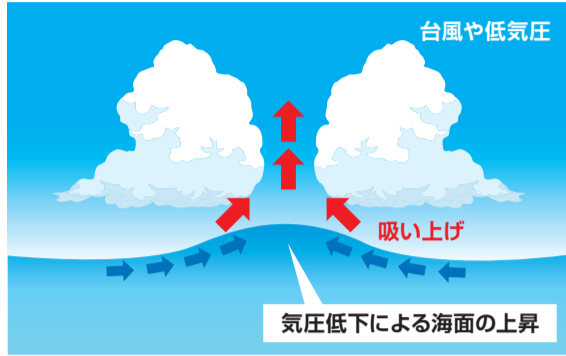


高潮発生のしくみ

高潮は、台風や発達した低気圧などによって発生します。高潮が発生する仕組みには「吸い上げ効果」と「吹き寄せ効果」があります。

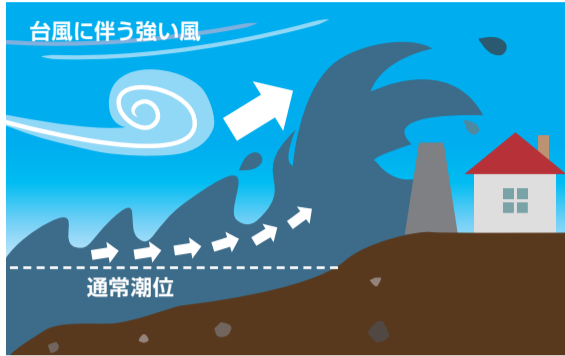
吸い上げ効果

台風や低気圧の中心気圧は周辺よりも低いため、周囲の空気は海面をおしつけ、中心付近の空気が海面を吸い上げます。気圧が1hPa(ヘクトパスカル)下がると、水位は1cm上昇します。



吹き寄せ効果

台風などによる強風が海側から陸地に吹いたとき海水が海岸に吹き寄せられて海面水位が上昇します。風速が2倍になると4倍の海面上昇をもたらします。

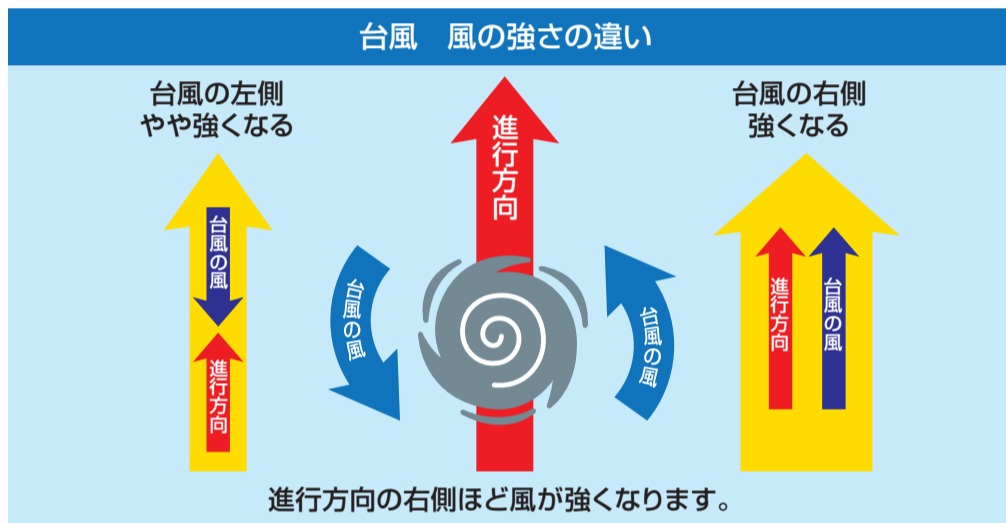


満潮時には特に注意

満潮時は海面水位が高いので、その時間帯に台風が接近する場合には注意が必要です。満潮は通常、1日に2回起こり、新月と満月の時には潮位がより高くなります。また、台風シーズンの夏から秋にかけての潮位は、他のシーズンに比べて高いことが知られています。

台風進路による影響

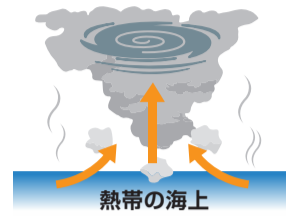
台風による強風が海側から吹きつける地域では、海水が吹き寄せられて潮位が高くなります。一般的に、北半球では台風進路右側において進行方向に風が吹きつけるので、吹き寄せ効果の関係によって進路左側より海面水位が上昇するといわれています。台風の進路次第で風向きが大きく変わりますので、進路にも注意が必要です。



高潮の発生原因となる台風

熱帯低気圧が発生・発達

熱帯の海上で発生した上昇気流で作られた積乱雲が多くなり、渦を作ります。上昇気流が強まると、更に渦中心の気圧が下がり、大きく発達したものが「熱帯低気圧」です。



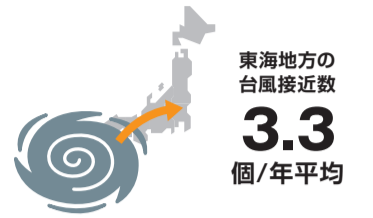
台風に成長

熱帯低気圧のうち、10分間平均の最大風速が17m/秒を超えたものが「台風」です。7月～10月にかけて発生しやすく、8月に最も多く発生しています。



接近・上陸

1992年～2021年の30年間で発生した台風は746個、9月が最も日本に沿ったコースをたどります。このうち東海地方に接近したものは101個、平均して年に約3.3個が接近しています。



過去の主な高潮被害

昭和9年の室戸台風や昭和17年の周防灘台風、また昭和34年の伊勢湾台風などの大型の台風に伴い、高潮による大きな被害が発生しています。

年月日	主な原因 (主な被害地域)	概要
昭和9年 9月21日	室戸台風 (大阪湾)	室戸台風とは、昭和9年に四国の高知県室戸岬付近に上陸して、四国から近畿地方を中心に激しい暴風雨と高潮をもたらした台風を指します。日本の気象事業始まって以来最も猛烈な台風で、室戸岬では日本の陸上で観測された最低の気圧911.6hPaを記録、特に大阪湾の高潮では低地の工業地帯に甚大な被害がありました。
昭和17年 8月27日	周防灘台風 (周防灘沿岸部)	周防灘台風とは、昭和17年に九州に上陸し、九州～近畿地方にかけて被害を出した台風16号を指します。特に山口県での被害が大きく、周防灘沿岸部での高潮の被害が顕著でした。この台風では、接近時刻が不運にも一帯の満潮時刻とほぼ重なり、大きな高潮となりました。
昭和34年 9月26日	伊勢湾台風 (伊勢湾)	伊勢湾台風とは、昭和34年に和歌山県から上陸した台風15号を指します。上陸後も勢力を保ったまま本州を縦断したため、愛知県をはじめとする広い地域で大きな被害がありました。「災害対策基本法」制定のきっかけとなった災害でもあり、日本の歴史に影響を与えた台風としてその名を残しています。愛知県内で特に被害の大きかった地域は、名古屋市(南区/港区)・海部郡(飛鳥村/蟹江町)・弥富市など、海拔ゼロメートル地帯に該当するエリアです。暴風だけでなく高潮による影響を受けたことが被害拡大の原因となっており、水没地域がなくなるまで半年以上かかるなど復旧にも長い時間を要しました。

高潮に関する防災気象情報の活用

高潮で命に危険が及ぶ範囲は、高潮の高さによって大きく異なります。まず、表面の高潮ハザードマップで浸水想定区域など危険な箇所をあらかじめ確認しましょう。

高潮に関する防災気象情報を活用した避難行動について

気象状況	気象庁の情報	高浜市の対応	住民が取るべき行動	警戒レベル	
高潮による浸水が発生		緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではありません	命の危険 直ちに安全確保! すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動しましょう。	5	
台風最接近の数時間前		(警戒レベル4までに必ず避難)			
暴風域に入る	高潮警報 または 高潮特別警報	暴風警報 または 暴風特別警報	避難指示	危険な場所から全員避難 ・台風などにより暴風が予測される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておきましょう。	4
暴風域に入る数時間前	高潮警報に切り替える可能性が高い 高潮注意報	暴風警報に切り替える可能性が高い 強風注意報	高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難 ・高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難しましょう。	3
台風最接近の1日～半日前	高潮注意報		自らの避難行動を確認 ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認しましょう。	2	
台風最接近の数日～1日前	(高潮に関する) 早期注意情報	(暴風に関する) 早期注意情報		災害への心構えを高める	1

※暴風(強風)に関する情報は警戒レベル相当情報ではありませんが、暴風が吹き始める前に避難を完了しておくことが重要です。 出典:「避難情報に関するガイドライン」(内閣府)に基づき気象庁において作成

避難のときに気をつけること(高潮)

①避難先の確認

市の避難場所・避難所では高潮の際に使用できない避難場所・避難所もあるので確認しましょう。また、浸水しない地域での親戚・知人家やホテル、民宿、勤務先なども避難先として有効です。



②テレビやラジオなどで正しい情報を

高潮は台風の接近によってもたらされる災害です。台風の勢力や想定される進路、台風の到達する時間での潮位(満潮かどうか)等の情報をテレビやラジオで確認し、正しい情報に基づいて行動しましょう。



③早めの避難行動を!

高潮が発生する時間帯は台風の強い風により屋外での人や車の移動が困難となります。公共交通機関もストップすることが予測されますので、安全に移動するため早めの避難を心がけましょう。



④近所同士の協力が大切!

避難の時には隣近所の方々にも声を掛け合い、みんなで怪我や病気の人の手助けを行うなど地域で協力しあうことを心がけましょう。



⑤河川からの氾濫や土砂災害にも注意

高潮は河川をさかのぼってからの氾濫することもあります。また台風に伴う豪雨により洪水や土砂災害も起こる可能性があることに注意しましょう。



高潮注意報・警報の基準となる潮位

高潮注意報 : 潮位 T.P + 1.6m
 高潮警報 : 潮位 T.P + 2.0m
 高潮特別警報 : 数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により高潮となると予想される場合

※この潮位の基準面は、東京湾平均海面(T.P)です。衣浦港の基本水準面(K.P)=T.P+1.366m

高潮に関する情報入手

●気象警報・注意報(気象庁)
https://www.jma.go.jp/jp/warn/346_table.html



災害リスク別防災メール(高潮)

登録対象: 碧海町五丁目

碧海町五丁目は、高潮による浸水の影響を受けやすい地域となっており、気象情報や避難に関する情報などをメールで配信しています。

登録方法

右記の二次元コードを読み取って空メールを送信し、返信メールの内容に沿って登録してください。二次元コードを読み込めない場合は、下記のメールアドレスを入力し、空メールを送信してください。



【登録用】

●メールアドレス
 teigaichi.takahama-city@raiden.ktaiwork.jp

避難が困難な場合

垂直避難

すでに高潮が発生し、浸水が生じている場合は無理に屋外へ避難しないようにしましょう。避難場所へ避難できない場合は、できるだけ高いところに避難してください。戸建ての場合は最上階へ、マンションの場合は3階以上の高いところに避難しましょう。

最上階、または3階以上に避難

